

【第1部】基礎 (Q1~Q20)

- Q1. ▶ 答え：ア 否定語「不」が副詞「常」の上にあるので部分否定。書き下し「我は常には笑はず」、訳「私はいつも笑うとは限らない」。
- Q2. ▶ 答え：イ 副詞「常」が否定語「不」の上にあるので全部否定。書き下し「我は常に笑はず」、訳「私はいつも笑わない」。Q1と漢字の順番が入れ替わるだけで意味が反転する。
- Q3. ▶ 答え：イ 否定語（不・未）が副詞（常・必・尽・俱）の上に来れば部分否定「～とは限らない」。副詞が上なら全部否定。この一つのルールがすべての型に共通する。
- Q4. ▶ 答え：イ 「不常」は部分否定なので「常には～ず」と読み、「は」が入る。訳「いつも家にいるとは限らない」。
- Q5. ▶ 答え：ウ 副詞「常」が否定語「不」の上なので全部否定。書き下し「常に家に在らず」。
- Q6. ▶ 答え：ア 否定語「不」が副詞「常」の上なので部分否定。書き下し「常には家に在らず」。家にいることも、いないこともある。
- Q7. ▶ 答え：イ 副詞「必」が否定語「不」の上なので全部否定。書き下し「客は必ず来たらず」、訳「客はきっと来ない」。
- Q8. ▶ 答え：ウ 「不必」は部分否定なので「必ずしも～ず」と読み、「しも」が入る。訳「客が来るとは限らない」。
- Q9. ▶ 答え：ウ 「不必」は部分否定「必ずしも～とは限らない」。来ないと決まったわけではない点が、全部否定（必不）との違い。
- Q10. ▶ 答え：ア 否定語「不」が副詞「必」の上なので部分否定。書き下し「富貴なれども必ずしも徳有らず」、訳「富貴であっても必ずしも徳があるとは限らない（徳のない場合もある）」。
- Q11. ▶ 答え：イ 副詞「必」が否定語「不」の上なので全部否定。書き下し「小人は必ず譲らず」。例外なく否定するのが全部否定。
- Q12. ▶ 答え：ア 全部否定は副詞「常」を否定語「不」の上に置く。イ「不常笑」は「いつも笑うとは限らない」という部分否定になる。
- Q13. ▶ 答え：ウ 部分否定は否定語「不」を副詞「常」の上に置く。ア「常不笑」は全部否定「いつも笑わない」。
- Q14. ▶ 答え：ウ 副詞「常」が上なので全部否定。「常に～ず」と読み、「は」は入らない。訳「いつも酒を飲まない」。
- Q15. ▶ 答え：ア 否定語「不」が上なので部分否定。書き下し「常には酒を飲まず」。飲む日も飲まない日もある。
- Q16. ▶ 答え：ア 否定語「不」が副詞「必」の上なので部分否定。書き下し「我は必ずしも勝たず」、訳「私が勝つとは限らない」。
- Q17. ▶ 答え：ア 副詞「必」が上なので全部否定「必ず～ず（きっと～ない）」。書き下し「我は必ず勝たず」。
- Q18. ▶ 答え：ウ 「不必」は部分否定で「必ずしも～ず」。訳「人は必ずしも豊かになるとは限らない」。
- Q19. ▶ 答え：ア 否定語は「不・未」、副詞は「常・必・尽・俱」。この二つの上下の順番だけで部分否定か全部否定かが決まる。
- Q20. ▶ 答え：イ 副詞「常」が否定語「不」の上なので全部否定。書き下し「人は常に憂へず」。

【第2部】標準 (Q21~Q50)

- Q21. ▶ 答え：ア 「未必」は「未だ必ずしも～ず」と読み、「不必」と同じく部分否定。書き下し「良薬も未だ必ずしも口に苦からず」。
- Q22. ▶ 答え：ウ 「未」は再読文字で一度目「いまダ」、二度目「ず」。「未必」で「未だ必ずしも～ず」という部分否定になる。
- Q23. ▶ 答え：ウ 「未必」は部分否定。苦い薬もあれば苦くない薬もある、という含み。
- Q24. ▶ 答え：ア 否定語「不」が副詞「尽」の上なので部分否定。書き下し「尽くは書を信ぜず」、訳「書物のすべてを信じるとは限らない」。
- Q25. ▶ 答え：ウ 部分否定「不尽」は「尽くは～ず」と「は」を入れて読む。アの「尽く～ず」は全部否定（尽不）の読み。
- Q26. ▶ 答え：ウ 副詞「尽」が否定語「不」の上なので全部否定。書き下し「人尽く知らず」。一人残らず知らない、という意味。
- Q27. ▶ 答え：ア 否定語「不」が副詞「俱」の上なので部分否定。書き下し「兄弟は俱には行かず」、訳「兄弟は両方そろっては行かない」。
- Q28. ▶ 答え：ア 「不俱」は部分否定。「俱には～ず」＝両方そろっては～ない。どちらか一方だけ、という含みが残る。
- Q29. ▶ 答え：イ 副詞「俱」が上なので全部否定。書き下し「兄弟は俱に行かず」。二人とも行かない。
- Q30. ▶ 答え：イ 「不俱」は部分否定なので「俱には～ず」と「は」を入れて読む。訳「二つのものは、両方そろっては手に入れられない」。
- Q31. ▶ 答え：ウ 「不俱得」は部分否定。両方は無理でも一方は得られる。イのように全部を否定するなら「俱不得」となる。
- Q32. ▶ 答え：イ 部分否定は「常には」「必ずしも」「尽くは」「俱には」のように「は」「しも」が入るのが目印。全部否定（常に・必ず・尽く・俱に）には入らない。
- Q33. ▶ 答え：ウ 「不常得」は部分否定で「常には得ず」。訳「(家が貧しくて) いつも油を手に入れられるとは限らない(手に入らないこともある)」。
- Q34. ▶ 答え：ウ 否定語「不」が副詞「常」の上なので部分否定。手に入る日もあれば、手に入らない日もある。
- Q35. ▶ 答え：イ 副詞「尽」が否定語「不」の上なので全部否定。書き下し「鳥尽く鳴かず」、訳「鳥はことごとく鳴かない(一羽残らず鳴かない)」。
- Q36. ▶ 答え：ウ 「不尽」は部分否定なので「尽くは～ず」と「は」を入れて読む。アは全部否定（尽不）の読み。
- Q37. ▶ 答え：ア 否定語「不」が上なので部分否定。「すべてが～とは限らない」＝鳴く鳥も鳴かない鳥もいる。
- Q38. ▶ 答え：イ 副詞「必」が否定語「不」の上なので全部否定。書き下し「人は必ず言を信ぜず」、訳「人はきつとその言葉を信じない」。
- Q39. ▶ 答え：ア 全部否定は副詞「俱」を否定語「不」の上に置く。イ「不俱信」は「両方そろっては信じない」という部分否定。
- Q40. ▶ 答え：ア 「未必」は「未だ必ずしも～ず」と読む部分否定。「未」は再読文字で二度目は「ず」と読む。
- Q41. ▶ 答え：イ 「未必」は部分否定で「不必」と同じ訳し方。賢い学者もいれば、そうでない学者もいる。
- Q42. ▶ 答え：イ 副詞「常」が否定語「不」の上なので全部否定。書き下し「友は常に來たらず」、訳「友はいつも来ない」。

- Q43. ▶ 答え：ア 否定語「不」が上なので部分否定。書き下し「友は常には来たらず」。来る日もあれば来ない日もある。
- Q44. ▶ 答え：ウ 副詞「俱」が否定語「不」の上なので全部否定。「俱に～ず」と読み、「は」は入らない。訳「みな一様に酒を飲まない」。
- Q45. ▶ 答え：イ 副詞「必」が否定語「不」の上なので全部否定。書き下し「雨必ず降らず」、訳「きっと雨は降らない」。
- Q46. ▶ 答え：ア 「必不」は全部否定「きっと～ない」。イは部分否定「不必降」の訳。
- Q47. ▶ 答え：イ 部分否定は否定語「不」を副詞「尽」の上に置く。ア「尽不信」は全部否定「ことごとく信じない」。
- Q48. ▶ 答え：イ 「不常」は部分否定で「常には～ず」。訳「月はいつも丸いとは限らない」。
- Q49. ▶ 答え：ア 否定語「不」が副詞「常」の上なので部分否定。満月の夜もあれば欠けた夜もある。
- Q50. ▶ 答え：エ 「必有」には否定語（不・未）がないので、部分否定・全部否定の対象外。「必ず～がある」という完全肯定で読む。書き下し「智者も千慮に必ず一失有り」。「不必」と見た目が似ているひっかけに注意。

【第3部】 応用 (Q51～Q80)

- Q51. ▶ 答え：ア 白文でも語順は同じ。否定語「不」が副詞「常」の上なので部分否定。「常には油を得ず（いつも油を手に入れられるとは限らない）」。
- Q52. ▶ 答え：イ 副詞「常」が否定語「不」の上なので全部否定。「常に家に在らず（いつも家にいない）」。返り点がなくても上下の順番だけで判定できる。
- Q53. ▶ 答え：ウ 副詞（常・必など）がなければ、部分否定でも全部否定でもない単純な否定。書き下し「家に在らず」。
- Q54. ▶ 答え：イ 全部否定は副詞「常」を否定語「不」の上に置く。アは単純な否定「本を読まない」、ウは部分否定「いつも本を読むとは限らない」。
- Q55. ▶ 答え：ア 部分否定は否定語「不」が副詞「常」の上。「不常読書」＝「常には書を読まず」。
- Q56. ▶ 答え：ア 否定語「不」が副詞「復」の上なので部分否定の仲間。「不復～」は「一度はあったが、二度とは～ない」。書き下し「友は復た来たらず」。
- Q57. ▶ 答え：ウ 「不復」は部分否定型で「二度とは～ない」。前に一度は来たことが前提になる。
- Q58. ▶ 答え：イ 副詞「復」が否定語「不」の上なので全部否定型。「復不～」は「(前にも来ず) 今度もまた来ない」。読みはどちらも「復た～ず」なので、語順で見分ける。
- Q59. ▶ 答え：ア 「不復」は「復た～ず」と読む。意味は「二度とは還らない」という部分否定型。
- Q60. ▶ 答え：イ 副詞「復」が否定語「不」の上なので全部否定の仲間。「不復（二度とは～ない）」との語順の違いに注意。
- Q61. ▶ 答え：エ 「必有」には否定語がないので完全肯定。「智者は必ず備へ有り（賢い人には必ず備えがある）」。「不必」と混同しないこと。
- Q62. ▶ 答え：イ 否定語がないので「必ず」とそのまま読む完全肯定。「必ずしも」と読むのは下に否定語（不・未）があるときだけ。
- Q63. ▶ 答え：ウ 「不必」は部分否定。書き下し「君子は必ずしも富まず」。
- Q64. ▶ 答え：ア 「未必」は部分否定。否定語「未」が副詞「必」の上にある。書き下し「学は未だ必ずしも成らず」、訳「学問が必ず実るとは限らない」。

- Q65. ▶ 答え：ウ 副詞「尽」が上なので全部否定。「尽く～ず」と読み、「は」は入らない。訳「民はことごとく従わない」。
- Q66. ▶ 答え：ウ 否定語「不」が副詞「尽」の上なので部分否定。従う民もいれば従わない民もいる。
- Q67. ▶ 答え：イ 「二度とは～ない」は否定語「不」を副詞「復」の上に置く「不復言」。ア「復不言」は「今度もまた言わない」。
- Q68. ▶ 答え：ア 否定語「不」が副詞「必」の上なので部分否定。「弟子は必ずしも劣らず（弟子が必ずしも師に劣るとは限らない）」。
- Q69. ▶ 答え：イ 「不必」の部分否定。書き下し「言は必ずしも意を尽くさず」。この「尽」は動詞「尽くす」で、副詞の「尽（ことごとく）」ではない点にも注意。
- Q70. ▶ 答え：ア 否定語「不」が副詞「必」の上なので部分否定。組になっている副詞は「必」。「尽」はここでは動詞「尽くす」。
- Q71. ▶ 答え：イ 「不常」は部分否定で「常には～ず」。訳「花はいつも咲いているとは限らない」。
- Q72. ▶ 答え：ウ 副詞「常」が否定語「不」の上なので全部否定。書き下し「花は常に開かず」。
- Q73. ▶ 答え：ア 否定語「不」が副詞「俱」の上なので部分否定。「二虎は俱には生きず（二頭の虎は両方そろっては生き残れない＝どちらかは倒れる）」。
- Q74. ▶ 答え：ウ 「不俱」は部分否定「両方そろっては～ない」。争えどどちらか一方しか残らない、というたとえ。
- Q75. ▶ 答え：イ 全部否定は副詞「俱」を否定語「不」の上に置く。ア「不俱逃」は部分否定「両方そろっては逃げない」。
- Q76. ▶ 答え：ウ 「未必」は「未だ必ずしも～ず」と読む部分否定。再読文字「未」の二度目の読みは「ず」。
- Q77. ▶ 答え：イ 「未必」は「不必」と同じく部分否定。「必ずしも～とは限らない」と訳す。
- Q78. ▶ 答え：ア 否定語「不」が副詞「常」の上なので部分否定。書き下し「強者は常には勝たず」、訳「強い者がいつも勝つとは限らない」。
- Q79. ▶ 答え：イ 部分否定「不常」。負けることもある、という含み。アのように全部を否定するなら「常不勝」となる。
- Q80. ▶ 答え：イ 副詞（常・必・尽・俱）が否定語（不・未）の上に来れば全部否定「いつも（きつと・ことごとく）～ない」。否定語が上なら部分否定。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

- Q81. ▶ 答え：イ 「不敢～」は「敢へて～ず」と読み、「決して（進んで）～しようとはしない」という強い否定。書き下し「臣は敢へて言はず」。
- Q82. ▶ 答え：ア 「不敢」は「敢へて～ず」。訳「決して主君をだまそうとはしない」。ウの「～んや」は反語の読みで、ここでは誤り。
- Q83. ▶ 答え：ウ 「不敢～」は強い否定。アの「～とは限らない」は部分否定（不必など）の訳なので区別する。
- Q84. ▶ 答え：イ 「敢不～乎」は「敢へて～ざらんや」と読む反語。「不敢～（決して～しない）」と語順が逆になると、意味も「必ず～する」へ反転する。
- Q85. ▶ 答え：イ 「敢不～乎」は「敢へて～ざらんや」。文末の「乎（や）」とセットで反語になる。
- Q86. ▶ 答え：ウ 「敢不～乎」は反語で、結論は強い肯定「必ず従う」。「不敢従（決して従わない）」と正反対になる。

Q87. ▶ 答え：イ 「不敢」は強い否定、「敢不〜乎」は反語で強い肯定。部分否定・全部否定と同じく、否定語「不」の位置（語順）が意味を決める。

Q88. ▶ 答え：ウ 部分否定は否定語「不」を副詞「常」の上に置く。ア「彼常不来」は全部否定「彼はいつも来ない」。

Q89. ▶ 答え：ア 否定語「未」が副詞「必」の上なので部分否定。「行人未だ必ずしも還らず（旅人が必ず帰ってくるとは限らない）」。

Q90. ▶ 答え：ウ 「不必」の部分否定。書き下し「勇者は必ずしも仁有らず」。

Q91. ▶ 答え：ウ 否定語がないので完全肯定。「必ず」とそのまま読む。「必ずしも」と読むのは「不必・未必」のときだけ。

Q92. ▶ 答え：エ 「必有」に否定語はないので完全肯定「必ず勇有り」。Q90の「不必有」（部分否定）との違いを見比べておこう。

Q93. ▶ 答え：ア 「不俱」は部分否定「両方そろっては〜ない」。一方だけは来る、という含みが残る。

Q94. ▶ 答え：ア 副詞「尽」が上なので全部否定。「尽く〜ず」と読む。訳「鳥もけものもことごとく立ち去らない」。

Q95. ▶ 答え：ウ 「不尽」は部分否定「すべてが〜とは限らない」。書き下し「王は尽くは賢を用ゐず」。

Q96. ▶ 答え：イ 副詞「尽」が否定語「不」の上なので全部否定。書き下し「王は尽く賢を用ゐず」、訳「王は賢者を一人残らず用いない」。

Q97. ▶ 答え：ア 「決して〜しようとはしない」は「不敢言（敢へて言はず）」。「不」の語順で文末に「乎」が付く「敢不言乎」なら反語「どうして言わないことがあるか」。

Q98. ▶ 答え：イ 副詞「常」が否定語「不」の上なので全部否定。「主人は常に酒を飲まず（いつも飲まない）」。「常」があるので、エの単純な否定ではない。

Q99. ▶ 答え：イ 否定語「不」が上の「不必成」は部分否定、副詞「必」が上の「必不成」は全部否定。語順がそのまま訳の違いになる。

Q100. ▶ 答え：ア 否定語「不」が副詞「常」の上なので部分否定。書き下し「人生は常には楽しからず」、訳「人生はいつも楽しいとは限らない」。——逆に言えば、楽しい日も必ずある。語順一つで意味が反転するのが部分否定・全部否定。迷ったら「否定語が上→部分」「副詞が上→全部」に立ち返ろう。